ISSN 0388−5569
VOL. 16 No. 2
（通巻47号）
1995. 9

Library News

山口大学附属図書館報

目次

ディジタル図書館時代を迎えて …… 1
大学図書館におけるサービスの新しいシナリオ …… 2
「MEDLINE」に無縁な人達にお知らせ …… 4
MEDLINE検索システム完成披露 …… 6
山口大学情報ネットワーク（YUNET）によるMEDLINE（医学文献情報データベース）の提供開始 …… 7
本学関係教官寄贈図書(受入順) …… 9
平成７年度附属図書館関係各種委員会名簿 …… 10
人事異動 …… 10
日　誌 …… 11
平成６年度図書館統計表 …… 12

ディジタル図書館時代を迎えて

井手明雄

生物を見ていると、分子レベルも含めて、生物は我々に対して多くの情報を発信している。それらは活字でないので解読できないことが多いが、その時は実験により解読している。その発信している情報を解読でき、相手の事を理解できるようになればなるほど生命に対して畏敬の念にかられる。それは、生物を構成するすべての分子を単に集めても生命にはなり得ないが、生物は、誰かの綿密な指令の下に行っているわけでもなく、自ら生命たらしめる巧みなシステムを構築して生命になっているからである。そればかりでなく、生物との情報のやり取りの中に気持ちの安らぎも感じる。生物がファジーであると同時に恒常性を有していて、その読者としての感性がそれに共振できるからである。これは読書の心髄であるといえませんか。情報に生命を有するといえるでしょう。生物が提供する情報の媒体は活字ではないが、図書と同じく読めば、著者の意図を理解できる点では同じである。図書との違いは図書が活字化された段階で情報が固定化されていて生き物でないということである。古人には図書は生き物であると唱えた人がいますが、生物と交換する情報と比較するとやはり死んだ物であるというのは言い過ぎでしょうか。物が豊かで精神的な充足が問われている今日、生物は、生きた情報交換が必要であるということを教えてくれていると思います。情報を提供する立場の図書館は、この生物と交信する情報提供に限りなく近づけることが必要ではないでしょうか。

今日、図書館は図書の電子化、インターネットの活用への対応が課題となってきている。インターネットの利用となると、それに伴って、図書館の利用形態が従来のものとは大きく変化することが予測されます。一つに、ディジタル図書館移行への対応があります。このディジタル図書館とは、言葉からよく似ている図書館資料の電子化を行う電子図書館と異なっていて、著者と読者が一体化できるような図書館のことです。インターネットを使用して初めて成り立つものです。このことは、情報処理学会九州支部、九州大学附属図書館、九州大学大型計算センター共催講演会講演要録（九州大学附属図書館発行の「図書館情報」から）の中の図書館情報大学教授田畑孝一先生の講演の中に述べられています。講演の中のことを紹介しますと、インターネットの利用が頻繁に行えるようになると、各々の地域ネットワークと広域ネットワークが結合し合い、各種の多量の情報をネットワークを介して相互に往来させることができるようになり、従って、第一に必ずしも成書の形でなくても、誰でもが何時でも勝手に情報を発

信できる。第二に誰でも何時でも必要なときにその情報をしかも選択して取得でき、第三に読者は、情報発信者に対して即座に意見の交換ができ、著者と読者が一体化できるとあります。

具体的にいいますと、同一の目的を有する研究者仲間或は読者の仲間でメイリンググループを作り、そのグループ間で情報交換をする。不明な点や質問事項をメイルし、そのグループの誰かに返答をしてもらう。返答に対して再度問いただす事もできます。また、誰でも各種の著作物の著者に直接意見を述べることができることです。情報が容易に発信されるので、発信される情報は従来の図書とは違い重みのないものもあるでしょう。しかし、直接、読者が著者と意見の交換ができることは先に述べました生物との情報交換のことと同質のものに見えないでしょうか。もしそうだとすれば、これが図書館の究極の目的であると考えられます。

インターネットの活用によりディジタル図書館の形成が可能ですから、インターネット活用にあたり派生する諸問題を整理し、それらの解決法を模索しながら、少なくとも10年、20年先の事を脳裏に置いて図書館のあり方を考えることが大事であり、その形成への努力をすることが館長の務めだと考えています。

皆様のご意見をお聞かせいただければ幸いと存じます。 （附属図書館長・農学部教授）

大学図書館におけるサービスの新しいシナリオ

図書館情報大学
永 田 治 樹

1．はじめに

カリフォルニア州立大学のモンテリー・ベイ新キャンパスには図書館が建設されないということです。ニューズウイーク誌（1995.2.6）は、このトピックを引き合いに出して“Wiring the Ivory Tower”（「象牙の塔をネットワークで繋ぐ」）という記事を掲載しています。紹介されたミニッツ総長の談話は、コンピュータを通じて情報を得る技術に有効に投資できるのに、図書館建設の煉瓦やモルタル、それに高価な学術書などに無駄使いはできない、今日伝統的な図書館を建設する必要は全くない、というものです。図書館がこれまでのままでは、立ち行かないところにきているのでしょうか。その原因と目されるのは、記事のタイトルから類推される昨今の情報ネットワークの目覚ましい進展です。実際、この動きは大変急速で、そして大学図書館に変化を迫っているのです。

1．情報ネットワークの進展

問題の情報ネットワークとは、高度の情報処理機能と通信機能を併せ持ったコンピュータネットワークです。元来これは、1969年に米国国防総省の始めたARPAネットという、大型コンピュータを共用するためのものでしたが、80年代に情報通信のためのネットワークとして、ローカルエリアネットワーク、地域ネットワーク、バックボーンネットワークと階層的に構成され、さらには国を越えた国際ネットワークにまで急成長したインターネットです。そして90年代に入ってインターネットは、月々10%をこえる脅威的な拡大を続け、昨年の半ばの数字で、つながっているコンピュータ数321万、ユーザー数は3,200万（現在では、5,000万）という規模となっております。

2．ネットワーク情報資源の出現

このような情報ネットワークの進展が、迅速で広範囲の情報発信を可能にしました。ネットワークにつながっていれば世界中の情報サーバーから情報を即座に引き出せるということでもあります。地域や国を越えて発展をする学術研究にとって、成果情報を容易に伝播させる特質は大変な魅力です。また情報量の急増によって現在学術出版は危機にあるといわれていますが、そのような状況に対してネットワークはそれに代わる有効な情報流通路です。そうした利点のおかげで、学術情報がインターネット上に大量に流通し、蓄積・更新されるようになりました。

大学図書館に身近な例を挙げれば、学術的なエレクトロニック・ジャーナル、あるいはフォーラムです。ARL（Association of Research Libraries：研究書館協会）の電子出版ディレクトリー第4版には、1,800の学術フォーラム、440のエレクトロニック・ジャーナル、ニューズレターが掲載されております。

1993年4月に出された前のものに比べて70%の増加で、1991年6月の初版に比べると、3.5倍です。またテキストの電子化も盛んです。プロジェクト・グーテンベルグや米国議会図書館のアメリカン・メモリーは主に著作権の切れた文献テキストのディジタル化ですが、新しいテキストのディジタル出版もあります。Alexというインターネット上の電子テキストのカタログには、700を越すテキストのサービスが登録されています。

これらは、しかしネットワーク情報資源のうちその1割程度をしめるテキストファイルの部分の、さらにその中のほんの一部でありまして、その他の各種のテキスト情報、図書館目録や2次情報などのデーターベース、各種のニュース、ソフトウェア、データ、画像情報、音声情報などの膨大な情報が、ネットワーク情報資源として蓄積されつつあります。

3. ネットワーク情報資源の入手

各機関のデータベースなどがネットワークでつながれて、それを相互に利用できるという地球的規模の情報環境がこのように構築される中で、求める情報を探し情報を入手するための手段が必要になってきました。それがインターネット・ツールと呼ばれるものです。John Decemberによりますと、ユティリティと、システムとインターフェースの三つにわけられ、最新のリストアップでは、ユティリティにはFingerやWHOISのようなものから、ArchieやTelnetなどまで24種のものが、またシステムとしてはGopherやWais、WWWなど6種のものが、またインターフェースとしては、LynxやMosaicなど17種のものが挙げられています。特にこれらのうちで情報の探索から入手まで導いてくれるものをナビゲーションツールと呼び、GopherとかWWW／Mosaicというものがよく知られています。

昨今大変な勢いで延びているWWWは、原理的にはHTML（Hyper Text Markup Language）形式で作成され蓄積された情報をHTTP（Hyper Text Transfer Protocol）という手順でやりとりするのです。特徴的なのは、WWWサーバーのテキストには、それと関連する情報インターネット上のアドレスがリンクづけされていて、つなぎを表示する部分をクリックしますと、あるテキストからそれに関連する情報に飛び移るという具合に求める情報にたどり着くことができるのです。飛び移る領域はインターネット全体であり、その先が同じサイトにあるか、あるいは遠隔のものであるかは通常問題になりません。このようなWWWの作り出す情報空間により、バーチャル・ライブラリー（仮想図書館）というアイデアが唱えられたのです。

4. ディジタル・ライブラリーの構想

バーチャル・ライブラリーなどの新しい情報技術を使った図書館が、壁のない図書館とか、あるいは電子図書館やディジタル・ライブラリーと呼ばれて、しばしば話題にのぼります。これら相互の差異はともかくとして、それは、「従来の図書館が紙やその他の媒体で収集して、目録作成し、その所在をつけ、提供してきたサービスについて、同じようにそれを実現し、それに習いつつサービスを拡張するために、必要な情報内容とソフトウェアを、計算、データ蓄積、通信のための機械とともに適切に組み上げたもの」であり、「完全なサービスを提供するディジタル・ライブラリーは、従来の図書館が提供してきた必須のサービスを実現しなければならず、またディジタル化された情報蓄積、検索、並びに通信のよく知られた長所を活かさねばならない」（H.M.Gladney et al. Digital Library:Gross Structure and Requirements:Report from a March 1994 Workshop.）＊といわれています。このような定義によりますと、新しい図書館の役割は、基本的に情報の流通サービスを行うという点で従来と変わりはなく、新規の展開はあるものの、従来から果たしてきた必須の機能が中心に据えられねばならないのです。ポイントは、新しい情報技術、つまり情報をディジタル化し、蓄積し、検索、提供する技術、あるいはネットワーク技術によって、教育・学習の支援や研究の支援がさらに発展した形で実現するということです。

5. 図書館の新しいサービスのシナリオ

確かに、ネットワーク化により、急に我々の視界が広がったような一種の錯覚があります。それは時間が急速に縮まり、距離が感じられなくなるような現象です。そして、あふれんばかりの情報が出現したのをわれわれは見出します。しかしながら図書館の基本的役割が見直されるべきだというのではなくて、問題はその機能の展開にあります。つまり状況に対応したサービス方法が求められているのであり、サービスの新しいシナリオが問題なのです。以下にシナリオを準備するための、いくつかの留意点を挙げておきます。

まず第1は、情報資源の確保です。これまでになくその範囲は広げられねばなりません。ネットワーク情報資源も視野に入るし、もちろんこれまでのものも必要です。情報の提供方法では、従来の媒体と電子媒体が並行します。新しい提供環境を整備しなければなりません。壁の向こうまで情報を伝送するドキュメント・デリバリー・サービスは基本的となるでしょう。また旧来のサービスの改善（例えば迅速化など）、そして教育・研究に密着した新たな情報提供サービスの設計が必要です。第3は、システム設計の重要な観点です。サービスのインターフェースを十分に工夫し向上させることです。図書館サービスは、単なる2次情報サービスだけでなく、利用の最終的な目的である情報それ自体（図書、雑誌論文など）の入手にいたるまでについて迅速に応えられるようになっていなくてはなりません。また利用者がいちいち個別のサービスをたどるのではなく、全体が一挙に済まされるような工夫が必要です。そのためには、目録に関しては早く遡及データベースが整備され、一挙に検索できるようにすべきですし、次に目録検索から容易に現物入手に移行できる総合的なインターフェースが要るのです。また、自動化されるインターフェースに対応して人的な支援などの面も十分に配慮すべきでしょう。

図書館は情報のクロスロードにあってその機能を果たしてきました。逆に情報のクロスロードになければ、そのサービス機能は低下します。情報ネットワークの進展により図書館サービスがあやうくなりかけています。今後図書館サービスをどのようなシナリオで実現するかが問われているのです。それとともに最後に、そのようなシナリオを指向するためには、従来からの業務のあり方を基本的に見直すことです。業務の大幅な変更です。図書館にとって、案外これが一番難しい課題かもしれません。

＊http:／／atg1. wustl.edu:80／DL94／paper／fox.html

（これは、3月3日に開かれた山口大学図書館員研修会の講演内容を館報のために永田先生にまとめて頂いたものです。）

「MEDLINE」に無縁な人達に

渡部哲夫

1．はじめに

恋とは不思議なもので、「自分とは無縁な人、意識の底にも存在しなかった人とでも、突然、愛が芽生え恋におちる」ケースは珍しくないようです。これは、古典の世界より語り継がれてまいりました。

この度、附属図書館では学内ＬＡＮを介して、医学文献データベース［MEDLINE］の検索サービスを開始しました。これは、医学とはフィールドを異にする研究者にとっては、全く無縁で無用なサービスとして映ることでしょう。

研究者の活動は、関係する様々な事象を整理し、組み合わせ、心を加えて結論を導きだすことだろうと思います。一方、私達図書館員の仕事はあらゆる分野の研究者（利用者）を対象にするため、様々な事象の存在を重視し、そのまま無関係（無縁）な状態で、日常的に取り扱っています。これは、研究者が無縁な事象を排除する作業から始める手法とは、大きく異なる発想だと言えます。

今、附属図書館は、本質を変えないままで外見を時代に適した姿に変えようと努めています。その変化の過程で研究者には、附属図書館が自分にとっては、無縁（無用）な姿に映る場面があることでしょう。しかし、研究活動の場合のように、事象を排除してかからず、休息中にコーヒーでも飲みながら、無縁なものの存在に思いを巡らしてみてはいかがでしょうか。

2．MEDLINEの普及に取り組んで

私達は、図書館員として、医学部のパソコンを学内LANに接続する、お手伝いをしています。このことは、MEDLINEの普及が主な任務ですが、医学部の各研究室を世界的通信網（インターネット）に接続することにも貢献しています。しかし、私達は，それらのことが最終目的とはせず、次のステージを意識しながら各研究室を飛び回っています。と申しますのも、来春、附属図書館の電算機システムが、総合情報処理センターの機器とともに更新されるからです。その最大の［売りもの］は、研究室から学内LANを介して図書館の蔵書情報を、検索（OPAC）することが可能になることです。

本学の人文系研究室でも、学内LANへの接続希望

が起こるものと想定しています。その時、私達が、MEDLINEで取り組んでいるのと同様に、［①経費は？ ②通信ソフトは？ ③基本的な最小限の知識は？ ④講習会を開いて欲しいが？ ⑤手続きは？］等、様々な情報と助言が必要になることでしょう。私達は、MEDLINEの普及活動を通じて様々な貴重な経験を積むことができます。そして、その経験が、MEDLINEとは無縁な人達に役立てられることに楽しさを感じます。

私達は，図書館の蔵書検索（OPAC）だけで、多くの研究室が、学内LANの接続に踏み切るとは思っていません。そこで、今後研究者には、ワープロをはじめとするスタンドアロン機器や、学内LANに接続してのオンライン端末機等の様々な効用と合わせて、ご案内することになるでしょう。私達は、その日のために、情報ネットワークの一翼を担えるだけの経験を蓄えつつあります。

吉村 誠（教育学部）先生が、「人文系の計算機利用の現状と課題」（注１）で述べられているように、コンピュータに無縁であったために、不慣れな先生方にも、情報通信や電算機利用などの機会が増えてくることでしょう。そのような時、「図書館員とハサミは使いよう……」ということに気づかれる日も近いように思っています。

３．なぜ図書館がオンライン検索を始めたのか

図書館は、研究者（著者）が心血注いで導きだした成果（著作物）を、将来にわたり人々に伝えていくことを使命としています。しかし、研究者（利用者）が無縁と認識している資料については、書庫の奥深い書棚で眠らせて置かざるをえません。それは、永眠させることなく、何時でも目覚められるように眠らせておく必要があります。

利用者は、必要な資料を図書館に求めます。しかし、図書館にとっては、利用者の要求に、全く無縁な一つ一つの資料を、平等に呼吸させていくことも、図書館の本質のひとつなのです。

図書館以外で行われているオンライン検索は、発展の過程と経済的側面から、「求める人に、求めるものを……」という立場で、今後も運営されていくと思われます。しかし、図書館が自ら運営して行こうとしている検索システムは、保存資料を死滅させないための人口呼吸器としてのみ、必要意義を持っています。従って特定分野の二次情報データベースの整備で、満足することはないでしょう。むしろ、あらゆる手段を選びながら、時間をかけても、全ての分野を網羅しようと努めることでしょう。

MEDLINEを展開させているシステムは、経済や教育や人文社会等、様々な分野の既存の、二次情報データベースをも運用可能な設計になっています。そして、商業誌・学会誌を問わず電子編集で出版される今日の学術資料は、大変、二次情報データベースを作成しやすい時代になりました。これは、様々な分野で、新しい二次情報データベースが育つ可能性を秘めています。

図書館では、当館作成の蔵書データベース（来春実現）と、手始めに商業ベースの（MEDLINE）のオンライン検索サービスを開始いたしました。このことは、研究者（利用者）からみれば、外見上、大きな変化として受け止められるでしょう。しかし、図書館の本質である、資料の（収集・保存・提供）には、何ら影響を与えないだろうと思っています。

４．ところで、MEDLINEとは、なに？

私は、MEDLINEの検索システム講習会の講師を担当することがあります。その時、基礎や臨床の研究者をはじめ、医師や看護婦・薬剤師・放射線技師・臨床検査技師・院生・学生等の受講者と接しながら、多くのことを学ぶことができます。

文献検索の目的は、必要な文献の存在と所在を情報として得ることです。しかし、MEDLINEの構造を観察すると、学術的課題が、［MeSH］と呼ばれる体系化された概念の中に配置されています。そのことが、若手の研究者を、細分化された専門性の渦に溺れることから救う機能を持っています。また、検索技術に精通することが、研究活動に役立つだけでない効用をもたらすこともあります。例えば、地下鉄サリン事件の被害者の治療や、撲滅されて経験機会の無くなったマラリアのような、特殊で希な対応を緊急に迫られた時などです。このような場合、的確な文献検索技術によって、過去に得られた貴重な文献を取り出すことができます。図書館としても、眠っている資料を目覚めさせ、その真価を発揮させることができます。これから、他の学術分野でも計画される二次情報データベースの構築にも、参考になるものではないでしょうか。

MEDLINEが本当に医学（医療）に携わる人達だけに有用なものなのでしょうか。医学（医療）は、人の生命を中核に置いて進められるために、主たる研究課題のそばに、副次的な課題をジレンマとして

負う機会の多い学術分野のように思えます。例えば、自殺未遂者を外科的に治療し、精神科医がケアに当たっても再発を防ぎ得ないケース。また、長期入院を余儀なくされた児童の教育問題。なにより、病み患うに至るまでの社会問題。これらは、医学文献データベース（MEDLINE）に納められた情報の塊りから、何本もの手が、［無縁］の空間に突き出ているように見える時があります。それは、読書療法や音楽療法や心理療法として、具体的に扱われるケース。あるいは、聴覚障害者と音楽、視覚障害者と美術工芸、身体障害者とスポーツ等は、無縁と片付けるに忍び難いテーマでは無いでしょうか。

5．おわりに

利用者は、「図書館に納められた資料は、必要で有用なものであるべきだ。」という固定観念で、図書館を評価されていると思います。しかし、私は、確率論的表現ですが、利用者にとって、なんと無縁（無用）な資料の集積場だろうと感じ続けてきました。図書館から、無縁（無用）なものを次々に取り去って行ったらいったい何が残るのだろうかと思うことさえあります。

図書館が本質を変えず、外見を少しづつ時代に適応させるよう努力する過程で、図書館が、無縁で無用な事象の集合体である事実を露呈させてしまうのではないでしょうか。そのことが、利用者の必要な資料を求める行動に、落胆を与えてしまうのだろうと思います。

しかし、MEDLINEでの私達の取り組みが、経験の蓄積として、無縁と思われている人達の、次のステージに生かせ得ること。［無縁］の空間にもアクセスポイントが存在すること等に、お茶を飲みながら思いを巡らせていただけないでしょうか。

恋とは、無縁と思えた人との間に、素敵な恋・悲しい恋・諦めきれない恋・忘れ去れる恋等、様々に生み出す不思議さを持っているそうです。無縁な資料に埋もれて生きている図書館員は、本当は、悪戯好きの恋のキューピットかもしれません。

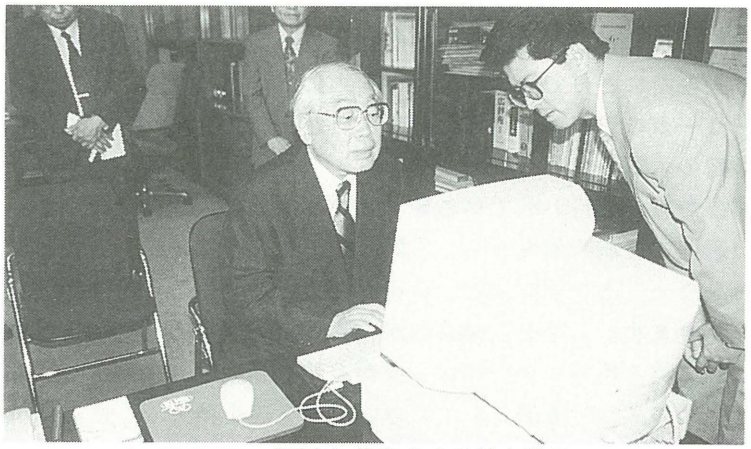
注１．山口大学総合情報センター・ニュース
№221（1995／7／11）　（医学部分館運用係）

MEDLINE検索システム完成披露

本号記事でも紹介しておりますように、CD－ROMサーバーによるMEDLINE（医学・生物学系の文献情報データベース）の検索システムが５月10日より運用を開始しました。運用開始に先立ち、同日午前10時から学長室において村上学長をはじめ総合情報処理センター山口分室長、附属図書館長、事務局長ら関係者列席のもと完成披露を行いました。

席上、村上学長から「自分の部屋で居ながらにして学術情報の検索ができるということは、研究者にとって非常な喜びであり、このシステムの完成は、学内の研究条件の進展に大きく寄与するものです。今後さらに他の分野の学術情報データベースが導入されることを期待しています」との挨拶がありました。

図書館員によるシステム概要の説明後、学長室のデスクサイドに置かれた学長愛用のパソコンを使って最初の検索が行われ、村上学長の著作論文の一覧が瞬時にして色彩鮮やかに画面に表示されると、参加者は感心しながら熱心に見入っていました。



（写真）検索をする村上学長

山口大学情報ネットワーク（YUNET）による MEDLINE（医学文献情報データベース）の提供開始

平成７年５月10日から附属図書館本館内にHEWLETT PACKARD製HP9000モデルE35に米国OVID社製の検索ソフトOVID（オビッド）と医学文献情報データベースMEDLINEを搭載、学内LANを介して全学に提供できるようになりました。今までのスタンドアロンでのCD－ROMによる検索システムに比べて利用環境が大幅に向上しました。

なお、HEWLETT PACKARD製サーバーによるOVID社製MEDLINEの導入は国内初です。

１．どこが便利になったの？

図書館に来館しなくても、いつでもどこでも自分の好きな時に、YUNETに接続されているパソコン等があれば利用できます。

従来までのCD－ROMをアクセスするのではなく、CD－ROMからハードディスクへダウンロードして提供するため、検索スピードが高速になりました。

２．検索ソフトOVIDって？

米国OVID社が開発したネットワーク検索ソフトの名称で、今回導入したものはフルテキスト対応のVersion3.0です。これは、1992年にリリースされ、“Information Today”紙から「最優秀検索インターフェイス＆サーチ・エンジン賞」を受けており、データベース作成元からも高い評価を受けています。OVIDは、UNIXをベースとして検索処理自体もサーバー内で行い全ての種類のパソコンが使用でき、その性能にとらわれることなく圧倒的な検索パフォーマンスが得られ、また、TCP／IPというインターネットで使用されている通信プロトコルを使用しているため、通信管理やセキュリティに優れています。

３．OVID製MEDLINEの特徴は？

入力語を検索に最も適当な言葉へ誘導するマッピング機能、検索結果を様々な条件で正確に絞り込むことができるリミット機能、MEDLINEで検索した結果から、そのオリジナル文献にリンクする機能等を搭載しています。

４．図書館では……

本館では３台、医学部分館では２台、工学部分館では１台、検索できるように利用者に開放しております。

５．利用するにはどうしたらいいの？

接続方法及びOVID検索マニュアル【MEDLINE編】を図書館で用意しておりますので、お問い合わせ下さい。

（参考調査係　内線788）

お知らせ

始まった日曜開館

医学部分館

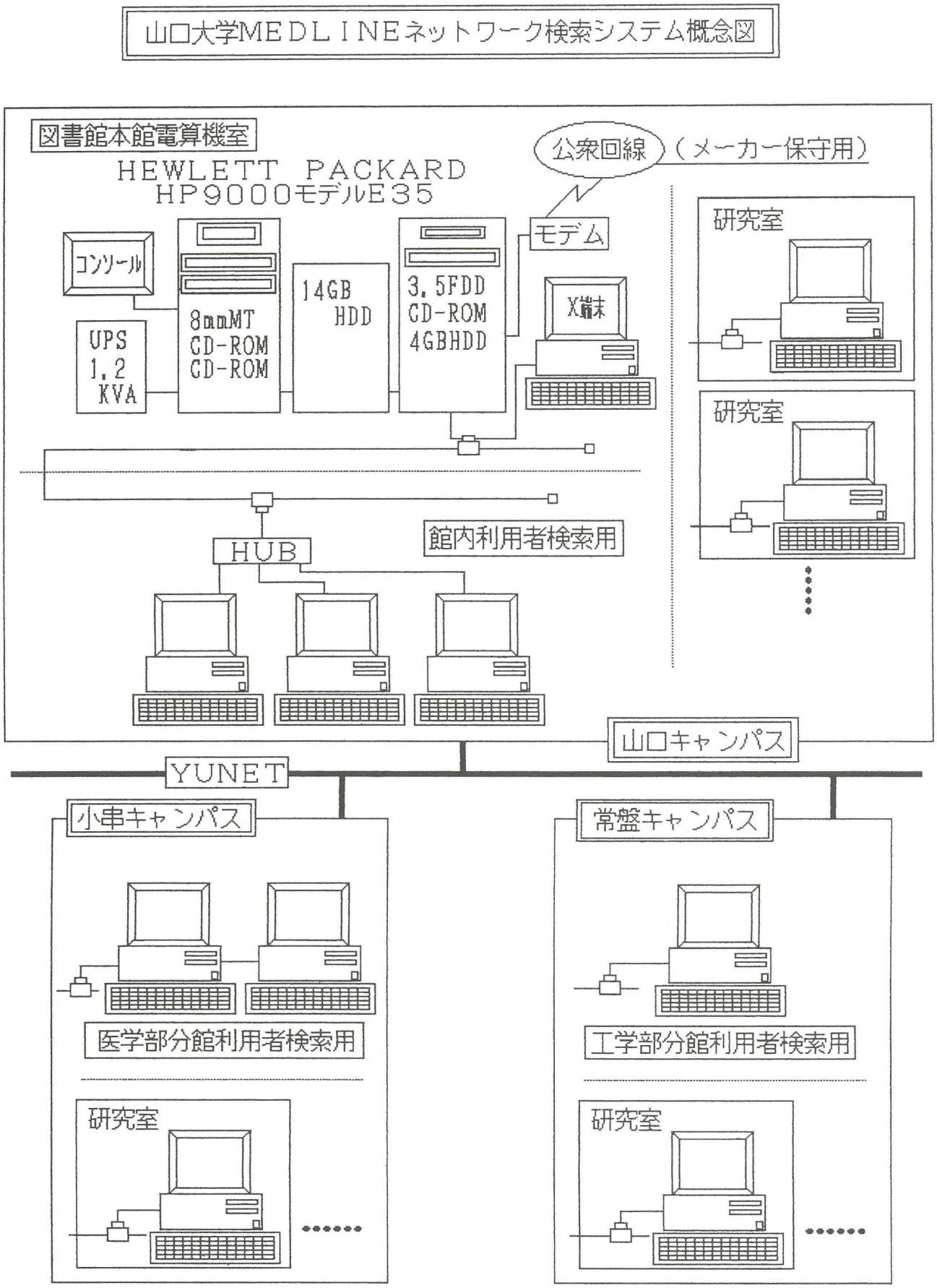
医学部分館では、医学部学生自治会の強い要望と21世紀へむけての図書館の使命を考え、平成７年度より日曜開館を実施することになりました。

とりあえず試験期のみとし、すでに第１期として７月２日、９日、16日の３日間実施し、初日は豪雨とＰＲ不足のため入館者数が13名と奮わなかったのですが、９日は115名、16日は73名と盛況でした。

なお、本年度残りの第２期、第３期の実施予定日はつぎの通りとなっています。

第２期：12月３日、10日、17日

第３期：２月25日、３月３日、10日、17日　　（開館時間：13時～18時）


山口大学MEDLINEネットワーク検索システム概念図
図書館本館電算機室
HEWLETT PACKARD
HP9000モデルE35
公衆回線
(メーカー保守用)
コンソール
UPS
1.2
KVA
8mmMT
CD-ROM
CD-ROM
14GB
HDD
3.5FDD
CD-ROM
4GBHDD
モデム
X端末
研究室
研究室
HUB
館内利用者検索用
山口キャンパス
YUNET
小串キャンパス
医学部分館利用者検索用
研究室
常盤キャンパス
工学部分館利用者検索用
研究室

本学関係教官寄贈図書 （受入順）

［本　館］

堂面　春雄（名誉教授）

・ナースの物理・基礎の基礎：寝ころんで，物理をつまみ食いしよう！　堂面春雄著　堂面春雄　1995

板垣　忠（名誉教授）

・高度情報化の進展と地域社会・産業：地域社会・産業の振興に関する学際的調査研究　山口大学地域社会・産業プロジェクト編著　山口大学地域社会・産業プロジェクト　1995

澤　喜司郎（経済学部教授）

・間違いだらけの交通安全　澤喜司郎著　成山堂書店　1995

桒原　昭徳（教育学部助教授）

・J•PRACTICE＝授業実践論集１　山口授業研究会［編］，桒原昭徳（ほか）執筆　山口大学教育学部桒原研究室　1995

・アサガオが呼びかけたこと：１年生M君とアサガオのかかわりの記録：共同研究資料　桒原昭徳著　山口大学教育学部幼児教育研究室　1995

・間接教育の構造：倉橋惣三の幼児教育方法　桒原昭徳著　ぎょうせい　1994

・マー君の散歩道：三歳児の四季　桒原昭徳　著　ミネルヴァ書房　1995

ルドルフ　プロット（教養部外国人教師）

・生きる喜び：25周年記念　ルドルフ・プロット著　［ルドルフ・プロット］　1995

五島　淑子（教育学部助教授）

・弥生人の食卓：米食事始め　大阪府立弥生文化博物館編集，五島淑子（ほか）執筆　大阪府立弥生文化博物館　1995

西村　祐二郎（教養部教授）

・新編山口県地質図（15万分の１），山口県放射年代図（15万分の１）　西村祐二郎，今岡照喜（ほか）編　山口地学会　1995

山本　哲朗（工学部助教授）

・「山口県下の地震とその防災意識」調査報告：1995年阪神大震災直後に実施　山本哲朗著　山本哲朗　1995

西口　毅（教養部教授）

・生活、社会、生命、環境と物質　1995年度版　西口毅著　西口毅　1995

谷光　太郎（経済学部教授）

・アーネスト・キング：太平洋戦争を指揮した米海軍戦略家　谷光太郎著　白桃書房　1993

高取　健郎（経済学部教授）

・商品検査手法ハンドブック　高取健郎著　大学教育出版　1995

松阪　仁伺（教養部教授）

・ホーソーン研究：前テキストの美学　松阪仁伺著　旺史社　1995

田淵　太一（経済学部講師）

・開発論のフロンティア　本山美彦編著　田淵太一（ほか）執筆　同文館出版　1995

森下　徹（教育学部講師）

・日本近世雇用労働史の研究　森下徹著　東京大学出版会　1995

古賀　秀男（教養部教授）

・エンゲルスと現代　杉原四郎（ほか）編　古賀秀男（ほか）執筆　御茶の水書房　1995

東亜経済研究所

・創立90周年記念論文集　（山口大学経済学部）創立90周年記念論文集編集委員会編　山口大学経済学部　1995

［医学部分館］

山口大学医学部第二内科

・大学医療の最前線：九州・山口・沖縄の内科学会　岡本顕實著　さわらび社　1995

・循環器疾患症例集：剖検より振り返ってみた臨床上の問題点　三浦俊郎・福田信二編　丸善　1992

・心臓病診療プラクティス３　松崎益徳編　文光堂　1994

平成7度附属図書館関係各種委員会名簿

（平成7年7月1日現在）

◎印は委員長

◇運営委員会

◎井手明雄（館長）
岸田令次（医学部分館長）
中川浩二（工学部分館長）
豊澤一（人文学部）
岩部浩三（人文学部）
林恒徳（教育学部）
佐々木洋城（教育学部）
中尾訓生（経済学部）
中村保（経済学部）
加藤崇雄（理学部）
岩尾康宏（理学部）
中村和行（医学部）
栗井郁雄（工学部）
川島東洋一（農学部）
柴田浩（農学部）
道廣泰倫（教養部）
青島均（教養部）
森松光紀（附属病院）
松村澄子（医療短大）

◇本館図書委員会

◎井手明雄（館長）
高木智見（人文学部）
滝野正二郎（人文学部）
佐々木洋城（教育学部）
福田隆眞（教育学部）
中尾訓生（経済学部）
中村保（経済学部）
加藤崇雄（理学部）
岩尾康宏（理学部）
川島東洋一（農学部）
柴田浩（農学部）
道廣泰倫（教養部）
青島均（教養部）
田尻英雄（事務部長）

◇医学部分館図書委員会

◎岸田令次（分館長）
中村和行（基礎）
森松光紀（臨床）
佐田英明（基礎・助教）
小田裕胤（離床・助教）
松村澄子（医療短大）

◇工学部分館図書・研究報告委員会

◎中川浩二（分館長）
栗井郁雄（委員）
石田武（機械）
佐田俊勝（応化）
上田満（社建）
崎山智司（電電）
宮本文穂（知能）
竹中俊介（機能）
尾形修司（共通）

◇図書館情報システム化推進委員会

◎田尻英雄（事務部長）
河崎戎三（情報管理課長）
猪瀬一夫（情報サービス課長）
安田浩規（図書館専門員）
萬代英夫（総務係長）
吉光紀行（受入係長）
江見伸子（目録係長）
松本美智子（運用係長）
恩知陽子（参考調査係長）
井関章（相互協力係長）
上田照賀（医・整理係長）
吉野君子（医・運用係長）
三浦博士（工・整理係長）
赤間篤彦（工・運用係長）
ワーキンググループ・メンバー

◇ワーキンググループ

◎猪瀬一夫（情報サービス課長）
佐藤仁（総務係）
西垣昇治（受入係）
赤野徹（目録係）
中川秀夫（運用係）
田中俊二（参考調査係）
河本香代子（相互協力係）
高田美栄子（医・整理係）
渡部哲夫（医・運用係）
三好静男（工・整理係）
岡田隆（工・運用係）
恩知陽子（参考調査係長）

◇図書館報編集委員会

◎猪瀬一夫（情報サービス課長）
安田浩規（図書館専門員）
森雅子（受入係）
松本美智子（運用係長）
藤本房江（医・運用係）
岡田隆（工・運用係）
恩知陽子（参考調査係長）

人事異動

［併任］（7．4．1） 井手明雄 附属図書館長（農学部教授）
［昇任］（7．4．1） 猪瀬一夫 情報サービス課長（放送大学学園から）
［配置換］（7．4．1） 多賀谷玲子 情報管理課総務係（庶務部から）
川野茂美（情報サービス課長）横浜国立大学へ
兵頭和子（情報管理課総務係）教養部へ
［採用］（7．4．1） 松浦聡子 情報サービス課運用係
笛田さな恵 情報管理課目録係
御手洗美智子 情報管理課総務係
［退職］（7．3．30） 重本日登美 （情報サービス課運用係）
（7．3．31） 岸田雅子 （情報管理課目録係）

日　　誌 （平成７年４月～８月）

［本　館］

４．10～12　新入生オリエンテーション（各学部ごと）
４．26　MEDLINE検索講習会
４．27～28　第43回中国四国地区大学図書館協議会総会及び第22回国立大学図書館協議会中国四国地区協議会（高松）　井手館長・田尻事務部長・猪瀬情報サービス課長
５．10　CD－ROMサーバ・システム完成披露（学長室）
５．17　FirstSearch操作説明会
５．26　平成７年度国立大学附属図書館事務部課長会議（東京）　田尻事務部長・猪瀬情報サービス課長
５．29～30　MECユーザー会（東海大学）　吉光受入係長・田中参考調査係員
５．31　MEDLINE検索講習会
６．２　山口県図書館協会理事会（県立図）　安田専門員・恩知参考調査係長
６．７　図書館情報システム化推進委員会（平成７年度第１回）
６．28～29　第42回国立大学図書館協議会総会(東京)　井手館長・田尻事務部長・猪瀬情報サービス課長
６．30　山口県図書館協会総会及び大学・短大・高専部会（県立図）　本・分館より５名
７．13　第70回山口大学附属図書館運営委員会及び第40回山口大学附属図書館本館図書委員会
７．19～28　学術情報センターミニ講習会（本館）　本・分館より19名・学外より６名参加
８．３～４　中国地区著作権セミナー（松江）　恩知参考調査係長

［医学部分館］

４．10　医学部、医療短期大学部オリエンテーション
４．11　日本医学図書館協会評議員会（東邦大学）　上田整理係長
４．17　大学院基礎コース情報検索講習会
４．24　医療短期大学部看護学科３年検索講習会
４．25　医療短期大学部衛生学科３年検索講習会
５．１　医療短期大学部看護学科３年検索講習会
５．８～９　MEDLINE検索講習会
５．17～18　第66回日本医学図書館協会総会（聖マリアンナ医科大学）　吉野運用係長
５．30　MEDLINE検索講習会
７．17　医学部分館図書委員会
７．21　高校生施設見学

［工学部分館］

４．５　編入生オリエンテーション
４．６　博士後期課程オリエンテーション
４．10　２年進級生オリエンテーション
４．10　夜間主コース１年生オリエンテーション
５．18　図書・研究報告委員会
７．18　図書・研究報告委員会

平成6年度図書館統計表

Ⅰ 蔵書数（平成7年3月31日現在）

区分	図書（冊数）			雑誌（種類数）		
	和	洋	計	和	洋	計
本館	804,284	314,087	1,118,371	13,550	4,960	18,510
医学部分館	82,818	76,648	159,466	1,818	1,918	3,736
工学部分館	84,288	52,656	136,944	1,448	1,361	2,809
計	971,390	443,391	1,414,781	16,816	8,239	25,055

Ⅱ 年間受入数

区分	図書（冊数）			雑誌（種類数）		
	和	洋	計	和	洋	計
人文学部	2,109	998	3,107	284	227	511
教育学部	3,672	1,028	4,700	440	280	720
経済学部	4,046	1,984	6,030	1,889	810	2,699
理学部	249	738	987	41	207	248
農学部	453	389	842	183	150	333
教養部	2,815	1,750	4,565	226	322	548
学生相談所	16		16		5	5
保健センター	4	2	6	10		10
埋蔵文化財資料館				8		8
本館	4,194	1,034	5,228	3,390	427	3,817
小計	17,558	7,923	25,481	6,471	2,428	8,899
医学部分館	1,883	2,087	3,970	759	760	1,519
工学部分館	1,593	1,914	3,507	621	544	1,165
合計	21,034	11,924	32,958	7,851	3,732	11,583

（注 管理換による減 361）

Ⅲ 利用統計

区分	開館日数（日）		入館者数（人）			館外帯出者数（人）			館外帯出冊数（冊）		
	時間内	時間外	時間内	時間外	計	時間内	時間外	計	時間内	時間外	計
本館	241	188	246,377	50,678	297,055	26,556	8,846	35,402	49,047	16,487	65,534
	一日平均		1,022	270							
医学部分館	243	239	36,292	30,338	66,630	8,670	6,546	15,216	18,114	14,261	32,375
	一日平均		149	127							
工学部分館	237	192	114,112	31,582	145,649	10,461	5,574	16,035	18,175	9,712	27,887
	一日平均		481	164							

（入館者のうち、学外者は本館408、医分館3757、工分館206）

Ⅳ 文献複写

区分		学内者			学外者	他大学等			合計
		私費	公費	小計	私費	私費	公費	小計	
電子式複写	本館	5,347	8,225	13,572	556	2,350	2,408	4,758	18,886
	医学部分館	6,884	8,663	15,547	704	4,933	3,009	7,942	24,193
	工学部分館	89	27,254	27,343	119	253	1,533	1,786	29,248
	合計	12,320	44,142	56,462	1,379	7,536	6,950	14,486	72,327
印画引伸	本館	0	0	0	0	0	0	0	0

編集・発行 山口大学附属図書館 〒753 山口市大字吉田 電話（0839）22－6111 内線 788